

会議録

00 会議の名称	平成19年度第2回河内長野市公共交通のあり方に関する懇談会
開催日時	平成20年3月17日(月)午後3時
開催場所	市役所 7階 701会議室
議題	(1) 課題別対応方針(案)について (2) 今後の取り組み方針について (3) 河内長野市公共交通のあり方(素案)の取りまとめについて
会議資料	会議次第 委員名簿 資料1 課題別対応方針 資料2 実現に向けた取り組みの進め方 参考資料1 コミュニティバス等の導入事例 参考資料2 輸送サービスの種類と特徴 参考資料3 アンケート結果の分析 資料4 市の基本的な考え方(第1回懇談会 差替)
公開・非公開の別	公開
傍聴人の数	0人
出席委員	日野委員、梶田委員、阪上委員、中谷委員、松本委員、村崎委員
欠席者	井戸委員、堂上委員、池谷委員
事務局	(都市建設部 道路交通室 交通政策課) 田和課長、貝野主幹、中野
会議録署名委員	日野委員、梶田委員

1 開会

2 懇談会の公開について

<事務局より河内長野市審議会等の会議の公開についての指針の説明>

会議の公開については、会議開催案件、傍聴、議事録の公開とし、会議録は概要議事録を公開することで、日野会長、梶田副会長が確認することで承認された。

3 議事：河内長野市公共交通のあり方に関する懇談会設置規程第6条により日野会長が議長として議事を進行

議題1・2 課題別対応方針、実現に向けた取り組みの進め方について

<事務局より資料1、資料2について説明>

質問、意見等

- ・公共交通の役割について検討するための、資料4の中で総合計画ではどのような街づくりを目指しているのかわかるように追加した。

【評価システムについて】

- ・バスサービスの評価システムに関してどう思うか。大阪市のコミュニティバスについては、評価システムを作り、その評価点が水準に達していないときは各地区でその事実を提示した上で検討してもらおうといった基準がある。バス利用者がいなければバスは必要ないと判断される。バスが必要なら一定の利用者があるべきで、そのためにはサービス水準を上げることが望ましい。このような判断のために何か基準がいると思う。
- ・バス事業者としては、路線の性質によって変化するので一概には言えないが、例えば、乗車設定として5人、収支率として50%のところは、維持困難な路線として位置付けはしている。
- ・事業者が単独で維持が困難な路線に対し、補助をするかどうか。補助をするならその理由が要る。例えば、環境にやさしい都市を目指しているのであれば、自動車からの転換をどの程度果たしているのか。あるいは、地域が活性化のためにどの程度バスを利用しているか、というのも根拠になると思う。
- ・運行に関して一定の基準を決める必要があると思う。バスが必要であるなら乗ってもら

わないといけないので、地域の人の協力が要る。

【バス需要の予測結果について】

- ・将来のバス需要予測グラフは、将来の人口データに基づいて算出しているのか？
(事務局：需要予測については大阪市立大学に分析を依頼しており、将来の人口などの予測データを基に算出している。需要予測の方法は色々あるので、別の分析方法も大学へお願いしている。)
- ・バス利用者は、この10年で約2割減少しており、10~20年後さらに2割減るとなると事業者としては厳しい。
(この需要予測の次に施策別のシナリオ分析をする予定である。何かの施策を実施した場合の効果等を、シナリオに分けて行なう予定。どのような施策が効果的なのかを分析していく予定である。)
- ・今回の予測では、当面のバス需要は落ち込むが、後期高齢者がバスに戻ってくるので、その後少しは回復すると考えられるため、利用者の減少が即時的に廃止にならないよう長期的な政策や方針を考えておく必要がある。

【公共交通利用促進について】

- ・毎月20日にノーマイカーデーが実施されているが、機能していない。このような取り組みを行政が率先して実施するべき。現状はほとんど実施されていないと思う。
- ・毎月20日はバス無料開放とか、市内のスーパーで5%OFFとかのアピールができるようなものがあればよい。
- ・空白不便地域の対策として、グループ利用によりタクシーを利用すれば1人当たりの負担は安くできるという取り組みがあるが、タクシーとしては乗り合い利用に積極的に取り組んでいるか。
(タクシーが乗り合いを進めると違反になるのでできない。)
- ・タクシーは1人で乗ると高いが、荷物などがあるときには便利。あまりきめ細かいサービスをバスにされると、みんなバスに乗ってしまうので、タクシーとしては困る。
- ・タクシーとバスは競合するのではなく連携しないといけない。タクシーとバスで共同出資でとか新しい仕組みをしても良いと思う。

- ・団地とバス会社での契約バスの事例もあるので、タクシーもこのような取り組みにより、固定客をつけるようにしてもいいのではないか。
- ・長い路線は効率が悪いので、実験的に乗り換えの拠点を作ってみてもいいのではないか。例えば、吉野では観光シーズンに民有地の木材置き場を一時的に駐車場とし、渋滞緩和の為に市民が協力しているなどの事例もある。

議題3 河内長野市公共交通のあり方（素案）の取りまとめについて

質問、意見等

- ・河内長野駅の観光案内所に観光名所へのアクセス方法の問い合わせが多いことを考えると、公共交通の利用促進に観光案内所をもっと利用してはどうか。
- ・公共交通に関するアンケートを実施しているが、その後のアンケート調査結果などのフィードバックが無い。老人クラブとして協力はいくらでもする。
- ・公共交通利用促進に向けて、上高地などのように、住民も含めてどこまで真剣に取り組んでいけるのかが課題であると思う。タクシーとしては、あの場所にお客さんがいるということが判っていれば、よりきめ細かいサービスが可能になる。
- ・観光地付近への自家用車の乗り入れを禁止し、タクシーでピストンするとか、その時にバスに乗って来れば乗り継ぎが安くなるようにするなど、施策のパッケージによってより効果があると思う。
- ・車でもバスでも行くことができるが、バスなどのほうがお得ですよという様な政策をすると良いと思う。
- ・バスのほうがスムーズに行くようにするには車の台数を減らすしかない。バスを自家用車から転換させるためにはどうすれば良いか。
（池田市がノーマーカーデーなど、車の総量抑制施策としての取り組みをしている）
- ・どこかへ行くときに公共交通が不便だと車で行ってしまう。河内長野市では人々が移動する時の環境への負荷を減らすため、駅前に車を乗り入れないような施策を実施し、環境が改善された分を市民に還元するなどの交通政策を一度考えてみて欲しい。
- ・これまでの各委員からの情報によれば、観光での取り組みはすぐにでもできるのではないか。観光と商工と一緒に取り組む仕組みを考えたり、河内長野市にお土産が無いなら

市民公募するなどして作れば良いと思う。

- ・公共交通事業者の観光の取り組みについて、バスは H7 年に観光バスを実施していた。タクシーも 20 年前に、2 時間で 9800 円 6800 円と割引し、観光タクシーを実施していた。
- ・次回はタクシーとバスの観光の取り組み事例を紹介していただいて、意見交換する時間を取りたい。

以上で議事を終了し、次回に素案に対する懇談会の意見の取りまとめを行いたい。

会議の経過を記載して、その相違ないことを証するためここに署名する

会 長 日 野 泰 雄

副会長 梶 田 忠 博